



「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和3年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを押し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間2セット実施します。今年度の1セット目は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、校内研究会として学びを進めました。高知市の中学校国語の拠点校である西部中学校の第1回【教材研究会】(6月10日実施)、第2回【授業研究会】(7月15日実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

### 第2学年 単元名：安心・安全で充実した修学旅行を提案しよう ～説得力のある構成を工夫する～ 【出典】「魅力的な提案をしよう」(光村図書『国語2』)

#### 単元づくりの改善

##### 授業改善のポイント

- ①子供の課題の所在を「What」何から「Why」なぜへ
- ②「How」どのように指導するか具体化する
- ③子供の実態ありきの教材研究を

P16, 17

「内容ベース」(わかる)から  
→ 「資質・能力ベース」(できる)へ

#### 西部中「プレゼンテーション」の授業改善

Before(子どもの実態)	After(授業改善)
単に「やってほしい」「～してください」「～してませんか」と思いばかりを伝える。 ※聞き手の納得につながらない。	聞き手のニーズを捉え、相手によって話の流れや内容を吟味・検討する指導が必要。

指導事項(A(1)イ)  
自分の立場や考えが明確になるように、**根拠の適切さ**や**論理の展開**などに注意して、話の構成を工夫すること。

聞き手を意識して話すことができる力を身に付けさせたい!

相手に説得力を持って伝えるために、**どのような根拠を示し、どのような話の流れで提案するか**に着目した指導が必要

#### 子どもたちが「主体的に学ぶ」ためには

学級全体の課題を「自分ごと」と受け止め、思考したり、対話・協働したりして解決に向かう。

相手意識	目的意識
どのような場で、誰に対してプレゼンテーションをするのか ○学級の仲間 ○同学年の他学級 ○下級生や上級生 ○全校児童 ○保護者 ○地域の人々	何のために、何を提案するためのプレゼンテーションなのか ○学校の未来 ○校区の未来 ○地域社会(市町村)の未来

「言葉による見方・考え方」は、伝えたい意図があって初めて働く。

どのような **主張・根拠・事例・構成・表現** にするのか

相手	校長先生・保護者
目的	コロナ禍でも <b>安心・安全</b> で、 <b>充実した</b> 修学旅行にするための解決案を提案し、採用してもらう

「総合的な学習の時間」第1時において、校長先生より修学旅行を提案してほしいと依頼を受ける。

本単元では「採用したい」「実現可能」と相手に思わせる提案をする

「やってみよう!」「相手を納得させる提案の仕方を学ぶ必要がある!」目的意識のあるスタート

#### 西部中学校の単元構想

##### 教科等横断的な視点での単元構想

解説(P5)には、「資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。」と示されている。西部中学校では、教科等横断的な視点で単元を構想することで、実現可能な修学旅行を提案するという課題を、生徒が「自分ごと」として捉え、主体的に取り組むための「学びのエンジン」を回すよう工夫した。

2021 SEIBU 修学旅行プロジェクト I

総合的な学習の時間: 課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ・表現 → 課題の設定

特別活動: 校外における集団生活の在り方等について考える (心身の健康、日常時の安全確保に向けて情報収集、理解する)

保健体育科: 感染症の原因と予防について知り、自らの身を守るための方法を考える (1)健康な生活と病気の予防 (2)感染症の予防

国語科: 単元の見直しをもつ (1)話の構成を工夫する (2)実際に伝えながら見直す (3)交流から構成のよさを見付ける

言語活動の創意工夫 解説(P10)  
○資質・能力の育成を図るために効果的である。  
○生徒が言語活動に興味を持ち、主体的な学習につながる。  
○目的に応じて試行錯誤しながら、生徒自ら学習を進める場面がある。等

学びの質の向上

総合的な学習の時間において  
校長先生からの依頼を受けたことを基に探究的な学習を進める。

特別活動において  
校外における集団生活の在り方等について考える。

保健体育科において  
感染症の原因と予防について知り、自らの身を守るための方法を考える。

国語科において  
聞き手のニーズを踏まえ、自分の考えを支える根拠の適切さや構想の進め方を考えることで、実生活で必要とされる説得力のある話し方を身に付けさせる。

本時(2/4時) [思考力, 判断力, 表現力等 A(1)イ 構成の検討, 考えの形成(話すこと)] 授業者: 岩城 あや 教諭 学級: 2年1組

#### 【本時の板書】 指導事項を踏まえた明示的指導の工夫

目的・相手を踏まえて説得力のある構成を考える

＜生徒の思考の様子＞

①相手意識を捉える。  
②相手意識の中身を変える。  
③資料を変える。

「言葉による見方・考え方」を働かせ、資質・能力を育成する。

「言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、**対象と言葉、言葉と言葉との関係**を、**言葉の意味、働き、使い方等**に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。(解説P12)

本時では、教師モデルの改善や、生徒同士の共有場面を通して、「**提案**」「**理由**」と「**具体例**」の**つながりや働きに着目させる**ことで、説得力のある構成を考える。

#### 適切な評価を行うための思考の可視化

伝えたいこと  
香川名物の味と歴史を知ってほしい

生徒ワークシート

共有前と後の生徒の思考を可視化させ、その変化を見取り適切に評価する。

共有を通して、自分の伝えたいことが伝わる話の構成について再確認しているため、概ね満足「B」評価とした。

構成の意図 Before  
びっぴ飯について知らない人は多いので、資料を2枚にした。よく知られている名物のうどんと比較し、コンビニで売られているという根拠の写真をもつてくることで、食べてみたいと思わせるようにした。

共有を踏まえた構成の意図(再確認) After  
びっぴ飯を最後に持ってきたり資料の枚数を増やしたりすることでかなり強調でき、興味を持たせることができた。

【授業を終えて】  
今回の提案授業では、ゴールにおける子どもの姿をイメージして単元を構想し、「何を、どんな風に指導するか」ということを常に考え、毎時間の授業を構成していきました。実践を通して、相手に「採用したい」と思ってもらえる提案をするには、自分の提案の「まとめり」や「つながり」に着目し、伝えたいことが相手に伝わるか、相手のニーズに合っているか等を検討し、構成の工夫を考えさせる指導や手立てが重要であると分かりました。「話すこと・聞くこと」の力は、国語科で付けた力を他の教科や学校生活で活用してこそ生きて働く力になるので、この学びを広げていきたいと思っています。(岩城 あや 教諭)

【参観者より】  
・国語が「道具教科」と言われるように、他の教科で活用されて意味があると思います。子供達がお互いのプレゼンをしっかり聴き、メモを取り、すぐに反応してアドバイスできる雰囲気は、何度も繰り返し先生方が伝え、子ども達が伝え合ってきたからこそ、何の抵抗感もなくできるのだと思います。自分の教科でも聴き合い伝え合うことは基本です。国語の力を借りながらまたスタートします。  
・教員が明確な意図を持って授業すること、さらに、授業の中で具体的にどういった手立てを講じるかによって、生徒の学びに大きな差が生まれることに改めて気付かされました。

今後の授業づくり講座  
教材研究会10月12日(火) ※リモートにて開催します!  
授業研究会11月5日(金) ぜひ、ご参加ください!